

---

## 5. 施策検討の視点

具体的な自転車施策の方向性を検討するにあたり、配慮すべき視点を以下に示します。

### 5-1. 人の優先と思いやり

安全な歩行環境を実現するためには、歩道上での歩行者と自転車の交錯する状況を改善する必要がありますが、このためには、自転車が安心して走行できる空間の確保が必要です。

歩道では歩行者が優先であり、自転車が歩行者の安全を脅かしてはならないこと、また、車道は自転車と自動車が共有する空間であることを認識するとともに、思いやりを持って道路を利用していくことが大切です。

このため、様々な利用者がバランス良く道路を共有できるよう配慮していくことが重要です。

### 5-2. 自転車の特性をいかしたまちづくり

自転車は自由で楽しい交通手段であり、公共交通機関などと効果的に連携することなど、自転車もつ特性をいかした利用を促進することで、人々の移動性が向上し、そのことにより、まちの新たな魅力の創出や、観光資源に新たな賑わいをもたらすことなどが期待できます。

また、自転車は健康的な交通手段でもあり、人々が元気で健康的に生きるというライフスタイルの象徴的な存在としての役割を担うことも期待できます。

このように、自転車の特性をいかした利用を促進していくことは、札幌市の魅力的なまちづくりに貢献するものと考えられます。

### 5-3. 札幌の地域特性

札幌の夏はさわやかで自転車利用に適していますが、冬は寒さが厳しく、積雪や路面凍結など、利用が困難な環境に一変し、冬の自転車利用率は夏に比べて大きく低下します。これは、夏は自転車を利用している人が、冬は他の交通手段を利用していることを示しています。

また、道路空間に着目すると、年間6mにも及ぶ降雪量があり、冬期に夏期と同じレベルの自転車利用の空間を確保することは現実的ではありません。

従って、環境の変化や季節ごとの利用特性を勘案し、他の交通手段も意識しながら柔軟に自転車利用を考えていくことが必要です。

### 5-4. パートナーシップ

自転車は手軽で自由な乗り物であることや存在のあいまいさによって、誰がどのような責任や役割を担うのかが不明確となっています。それが自転車に関係する様々な課題への取り組みを難しくしていると言えます。

そのため、自転車の関連施策の推進にあたっては、行政や自転車利用者だけではなく、事業者や自転車を利用しない一般市民に至るまで、様々な立場の人々が、自らの意思で課題に積極的にかかわり、生活実感に基づく考え方や思いをしっかりと反映していく、パートナーシップによる取り組みが求められます。

---